

令和6年度 幼稚園自己評価

幼稚園目標 一人一人の幼児が自分なりの力を発揮し、友達とかかわり合いながら生きる力をやしなう

今年度の重点目標	評価内容		取組指標	達成判断基準	判定	判定結果に関する説明	来年度に向けて
幼児理解を深め教員の資質向上を図る	保育の振り返りの活用	全学年での振り返りを有効活用し、幼児の育ちの道筋を知り環境の構成を工夫する	4：全学年での振り返りを継続的に実施し、育ちの道筋を知り、自分の保育を振り返る 3：全学年での振り返りを継続的に実施し、他学年の状況を知り、自分の保育を振り返る 2：全学年での振り返りの会を実施し、保育の振り返りを記録する 1：全学年での振り返りの会を実施する	4：振り返りで各学年の幼児の育ちや学びを理解し、育ちの道筋を活かした環境の構成を行うことができた 3：振り返りで各学年の幼児の育ちを理解し、育ちに応じた環境の構成を行うことができた 2：振り返りで各学年の幼児の育ちを理解することができた 1：振り返りで各学年の幼児の姿を知ることができた	A	時期や状況に応じた方法で振り返りを行い、幼児の育ちや学び、育ちの道筋を教師間で共通理解し、育ちに応じた環境構成を工夫することができた	引き続き年齢に応じた環境構成を追究する
	園内研修・研究会の実施	園内研修・研究会を実施し、「探究心」をキーワードに、幼児の育ちの道筋を探る	4：研究会や研修会を定期的 to 実施し、その中で自分なりの考察を深める 3：研究会や研修会を定期的 to 実施し、その中で自分なりの考察を提案する 2：研究会や研修会を定期的 to 実施し、その中で幼児のエピソードを提案する 1：研究会や研修会を実施する	4：研究会や研修会に参加し、「探究心」についての育ちの道筋を示すことができた 3：研究会や研修会に参加し、「探究心」について自分なりの考えをまとめることができた 2：研究会や研修会に参加し、「探究心」について考え、自分の考えを表現することができた 1：研究会・研修会に参加し、「探究心」を知ることができた	A	幼児の「探究」する姿について事例を収集し、園内研修や研究会で検討を重ねる中で、教師一人一人が自分なりに考察を深めることができた。また、学年の探究のプロセスをもとに各学年の探究の様相をまとめるに至った	研究テーマを『幼児の姿からつむぐ指導計画（3 年次）－「探究心」を育む－』とし、引き続き「探究心」をキーワードに発達の様相を検討し、育ちのプロセスを探る
	幼小連携の推進	小学校と接続期について共通理解をはかり、指導の工夫をする	4： 幼小連絡会を定期的 to 実施し、接続期の教育について理解し、指導に活かす 3： 幼小連絡会を定期的 to 実施し、接続期の教育について意見交換を行う 2： 幼小連絡会を定期的 to 実施する 1： 幼小連絡会を実施する	4：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について考え、多様な考えをもてるようになった 3：接続期の教育内容について考え、指導計画の改善を考えるようになった 2：小学校教員と積極的に連携をとるようになった 1：小学校の生活を知ることができた	A	・幼小連絡会を実施した（4 回） ・互いの保育、授業を教師が参観し、資質能力をもとに話し合い、接続期について共通理解を図ることができた ・接続期について考えることで、5 歳児だけではなく、入園から修了までの幼児の学びの積み重ねを念頭に置き指導に生かした ・交流活動の際、事前事後に話し合いの場を設け、幼児と児童両者の学びにつながる活動内容になるよう取り組んだ	・幼小接続プログラムプロジェクトを立ち上げ、本学校園ならではの架け橋期の教育を模索する ・引き続き学びの積み重ねを念頭に置き、入園から修了までの指導に生かす ・幼小交流を継続的に積み重ね、共通理解を深める
業務改善に向けた ICT の活用	保育活動における活用	業務改善につながる幼児の遊びや生活を豊かにする ICT 活用を探る	4： 幼児の遊びや生活に応じてタイムリーに ICT 機器を活用したり提供したりすることを通して業務改善につなげる 3： ICT 機器を活用し、幼児の興味関心に応じた情報の提示方法を工夫することを通して業務改善につなげる 2： ICT 機器を利用し、幼児の姿や環境を記録したり、その情報を幼児に提供したりすることを通して業務改善につなげる 1： ICT 機器を利用し、幼児の姿を記録したり、必要なことを調べたりし、業務改善につなげる	4：幼児が自ら ICT の活用を求めるようになった 3：幼児の姿に応じて ICT 機器の利用を選択肢として考えるようになった 2：幼児の遊びや生活に応じて ICT 機器を活用するようになった 1：幼児の遊びや生活に ICT 機器を活用するようになった	A	・幼児の遊びや生活が豊かになるよう、幼児の興味関心や年齢に応じて画像、動画、音楽をタイムリーに提供するために使用した。また、幼児自ら遊びを豊かにするために、必要に応じて ICT 機器の活用を求める姿が増えた ・保育の振り返りの際資料として動画や画像を活用することで、振り返りの時短につながった	・引き続き幼児の発達段階に応じ、実体験が豊かになるよう ICT 機器を効果的に活用する ・保育の振り返りの資料として ICT を有効活用し、業務改善につなげる